

千葉国際芸術祭実行委員会第6回総会 議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日 時

令和6年10月3日（木） 10時30分～

2 開催場所

千葉市役所本庁舎 高層棟4階 幹部会議室

3 出席者

（委員）神谷委員長、佐久間副委員長、磯野委員、宍倉委員、飯田委員、山梨委員、足立委員、青柳委員、綱島委員、小池委員、横手委員、小川委員、鶴岡委員、那須委員、藤代委員、折原委員

（事務局）堺生活文化スポーツ部長、吉野文化振興課長 横山文化振興班主査
伊藤（博）主任主事 小清水主任主事 伊藤（雅）主任主事、安藤主任主事

4 議 題

- （1）千葉国際芸術祭2025VI案について
- （2）千葉国際芸術祭 2025 令和6年度実施計画書案について
- （3）部会への諮問について

5 議事の概要

- （1）千葉国際芸術祭2025VI案について
VI（ヴィジュアルアイデンティティ）案について説明を行い、英訳の文言については検討ありの上で、承認を受けた。
- （2）千葉国際芸術祭 2025 令和6年度実施計画書案について
実施計画書案について説明を行い、一部文言修正ありの上で、承認を受けた。
- （3）部会への諮問について
部会への諮問について承認を受けたため、部会への諮問を行った。

7 会議経過

【神谷委員長】 それでは、次第に従いまして、議事を進行してまいります。では、はじめに、「議案第1号 千葉国際芸術祭 2025 ロゴマーク案」について事務局から説明願います。

<事務局説明>

【神谷委員長】 ありがとうございます。それでは、部会の議長であります水沢議長から、答申書と部会でのご意見をご紹介いただきたく存じます。水沢議長、よろしくお願いいたします。

【水沢議長】 前回の部会で提案を受け、A案で委員の意見が一致した。デザイン上の応用も柔軟にでき、「ち」の言葉一つで千葉も伝えられるし、キャッチコピーの「ちから」なども伝える。マルチミーニングの部分も相乗効果で伝えることもできるし、インパクトもある。

【神谷委員長】 ありがとうございます。それでは中村総合ディレクターから、ロゴやキャッチコピーなどご説明いただければと思います。併せて英訳のキャッチコピーもお願いします。

【中村総合ディレクター】 ロゴのデザインを担当したデザイナーがいるので、デザイナーからひと言、デザインにかけた思いを説明していただく。

【佐藤デザインディレクター】 国際芸術祭のテーマの多様な主体と尊重と繋がり の創出を体現することをデザインの念頭に置きました。「ちから、ひらく。」というコピーを考え、「ち」から物事が開いていく様子など、複数の意味を包含することをテーマにおいて、「ち」の懷の中に様々な要素を含ませて、千葉の地から力が開いていくことを表現したロゴになったと思います。

【中村総合ディレクター】 デザインを完成させるまでに多くのスタディをした。「ちから、ひらく。」は「ひらく 街とところ」を子どもから大人までわかりやすくしたキャッチコピーです。チラシ、ウェブサイト、情報が多い街の中で、視覚的なインパクトがある。類似の事例を調べたが、ひらがなの「ち」はない。カタカナの「チ。」は漫画であるが、ひらがな自体は商標登録されるものではないので、権利的には問題ないことを調べた中でご提案しています。

マルチミーニングなのでその人にとっての「ち」を描きやすい。多様な「ち」のあり方をデザインしやすい、シンプルで力強く意味深いものができたと思う。

英語表記の説明をさせていただく。海外コーディネーターにネイティブスピーカーにアンケートやヒアリングをしてもらった結果、A案の unlocking potential, empowering people をご提案したい。empowering の power がふさわしいか、部会で議論になりました。empowering は権限を与える、自由を与える、つまり可能性を広げるという意味なので、単純な power とは異なる意味を持っています。

【神谷委員長】 ありがとうございます。委員の皆様からご意見いただければと思います。

【横手委員】 ロゴもキャッチコピーも素晴らしく感銘を受けました。「ち」の方も味わい深く感じます。英語の方も「ちから、ひらく。」を表現されている。empower はいろんな領域で重用されているところです。

ただ、表記に ing を2回使用すると意味が希釈されてしまうと考えます。Ing を外した unlock potential, empower people は議論されたでしょうか。

【中村総合ディレクター】ingの部分については議論していません。

【横手委員】ネイティブスピーカーに確認してもingを外しても異論は出ないのではないかと思います。シャープさ、切れの良さを考えるとご検討いただいてもいいかと思います。

【中村総合ディレクター】いただいた意見をチームで深めたいと思います。

【綱島委員】A案が街の中で露出されると思いますが、「ちから、ひらく。」の意味合いが、マルチミーニング部分について、千葉の人であれば「ち」からひらくと受け止めるが、初めて見た人にはパワーの「ちから」ひらくと思われて、マルチミーニングとみてもらえないのではという懸念があります。「ち」の文字だけを大きくするなど、何らかの工夫をしてもいいと思います。

また、chiba city とは書いてあるが、千葉市なのか千葉県なのか、わかりにくいのではないかと。そこに工夫があってもいいと思います。

ロゴ自体はA案でいいと思いますが、街の中でどう露出して地域の人にどう理解してもらうかが大切であると思います。創造性のスイッチを入れ、一人一人に自分事とどうつなげていくかを、キャッチをベースに普及させていくことが大切だと思いました。

【中村総合ディレクター】自分が創造的になるためには、答えが目の前にあっては創造的にならないです。答えを探しに行くという能動性がある初めてイメージが広がる。「ち」の魅力はある種、問いでもあります。「ち」の音も含めて、意味が形成される前の状態。「ち」のひらがなの形がなぜこうなったのか、音の響きがどこからきて、なぜ「ち」という音になったか。意味についてはボディコピーを用意しているので、こちらを見ていただきたいが、答えをすぐに出すのではなく各々に想像してほしいという想いがあります。読み方などは「ちから」ひらくではなく、「ち」からひらく、と強調していきたいと思う。

【綱島委員】「ち」からひらくで読ませたいということですよね、どうしても「ちから」ひらくと読んでしまう人が多いのではないのでしょうか。

【中村総合ディレクター】であるからこそ、「ち」からとわかったときに、イメージが大きく膨らむのではないかと思います。

【水沢議長】A案は「ち」という一文字で手触り感がある。色々な意味合いを伝えてくれるデザインになっている。多様な意味が込められているからきれいな活字でなく手書き文字の中に宿っている。

サブ要素として、「ち」の懷を変えて色々な形に変わっていく。応用編として広報で使われていくので、「ち」に千葉が重なっていくと思うので、使われていくうちに納得されていくのではないかと思います。

【綱島委員】第一印象だと、関係者であれば「ち」を強調しているのは理解できますが、前情報のない人が「ち」を感じ取れるか、想像してもらう、というのはそうだが、損をしないように、「ちから」だけに捉えられないように工夫をした方がいいと思いました。

【藤代委員】キャッチコピー以降の説明部分も議題の事項でしょうか。

【事務局】キャッチコピーは「ちから、ひらく。」のみ。その後続くボディコピーは、広報で今後一体として見せていきますので、今回の議事としては「ちから、ひらく」部分のみです。

【藤代委員】県庁所在地という固い言葉が、柔らかい文章の中で目立つため、意図があるのであればいいと思いますが、そうでないなら表現を検討した方がいいと思いました。

【中田広報ディレクター】千葉県であるのか、千葉市であるのかがわかりにくい名称の芸術祭なので、あえて県庁所在地、中心の都市であることを強調した。ウェブサイト、パンフレットやイベントで使っていく際は、伝える相手を見て言葉選びは柔軟に対応していきたいと思います。

【佐久間副委員長】子どもから大人までわかりやすく、漫画のような雰囲気。日本語の漢字やひらがなは、国際的にも評価されています。「ちから、ひらく。」については、「ち」を強調するために、知恵を絞ってなどの「ち」のマルチミーニングにあたる部分をひらがなにして、複数の意味合いがあることがわかるように一行目に入れてきてはどうでしょうか。

【中村総合ディレクター】検討させていただく。

【神谷委員長】様々のご意見をいただいたが、A案で異論はなかったと思います。キャッチコピーの「ちから、ひらく。」の伝え方については、たしかに第一印象で「ちから」が想起されるが、説明を聞くとインパクトがあり、頭の中が整理されるので、この芸術祭の目指しているところが頭に残りましたので、いただいたご意見のようにどう気づかせるか、広報の工夫をしていただきたい。

英語表記については、ing を入れると意味が希釈されるというご意見もあったので、ing について検討していただきたい。

以上の二点を付記したうえで、A案で進めてよろしいでしょうか。

【各委員】異議なし

【神谷委員長】ありがとうございます。続きまして、「議案第2号 千葉国際芸術祭 2025 令和6年度実施計画書案について」について事務局から説明願います。

<事務局説明>

【神谷委員長】ありがとうございました。それでは、部会の議長であります水沢議長から、答申書と部会でのご意見をご紹介いただきたく存じます。水沢議長、よろしくお願いいたします。

【水沢議長】細かいところまで検討し、今までの実績を踏まえ、来年の本番に向けてどう実施するかという計画で、芸術祭の開催目的、基本方針などと一致している、細かい部分での問題はなく、委員からの意見は出なかったもので、部会として計画を承認しました。

【神谷委員長】ありがとうございました。それでは中村総合ディレクターから、実施計画書についてお考えなど伺いできればと思います。

【中村総合ディレクター】知れば知るほど千葉の魅力、人、場所、歴史など創造的な想いをそこで開く前、開いた後どうなるのか、自分に問いながら街を歩き人と出会っています。ゼロから始

めたので、本会期、その先の芸術祭を考えたときに、どうすれば多くの市民の人に支えられるものになるのかのイメージを考えています。

10ページのアーツフィールド、市場町について。一個一個の建物に歴史があり、記憶が宿っている。岩沢兄弟が地元で、彼らの紹介で趣のあるうなぎ屋を拠点形成として改修しています。拠点を持つ意義は、事務局の居を構え、作家、市民が集まってくる。10年以上人が集まってくる事がなかった場所にまた人が集まってくることが、一つのアクションとして場を開いていくことにつながります。

すべてのプロジェクト、アーツフィールドに関して、近未来に地域因子として、地域に眠っている魅力が開いていく、そのエネルギーを与えるのは誰なのか、誰かと組んで芸術祭のフィールドでエネルギー生み出していく。本会期の時に、芸術の結果だけを見て判断するのではなく、途中のプロセスに参画してくる市民が大切で、それぞれの場所でどういう集まり方で、どのような想いをもって参画するかに力を入れています。

花見川団地は、高齢化しているが若い世代も入ってきていて、にぎわいを創出することを考えている建築家があり、そこと組んで、かえっこの開催を一緒に企画しており、寄り添って作る姿勢を大切にしている。

西千葉には、千葉大学があり、文化の街だという人が多い。従来の文化的な意識が高いところも含め、新たな構想が動いている中で、JRの高架下で暫定的にプロジェクトをすることを考えている。

市場町までの道すがら、栄町なども歩いたが面白い。ユニークな場所が多くある。市場町にきたらモノレールに乗って、県庁前の使われていないホームに行くこともできる。回遊性も大切にしておいてアーツフィールドを考えています。

チームビルドして話を聞きながらその場所の課題をその場所の人たちと考え始めており、ひと手間ふた手間もかけているところ。外部からの押し付けではない。プレイヤーが主役になることを大事にしている。

こども病院はクローズドな場所だが、入院患者、家族、働いている人の創造性を向上させる。プログラムを作った際に、病院の負担にならないように、どう病院の中でチームを作ったらプログラムを作って展開していけるか考えている。2つのプログラムを予定している。理想としては芸術祭が終わった後にも、病院で自走できたらすばらしいと思う。

美術館のアーカイブプロジェクト。岩沢兄弟から提案があり、動物が描かれた作品の動物部分を切り取って、動物公園にARで出現させるということを提案したところ、動物公園側に喜ばれた。動物の価値変換、意識を変容させることを考えたいということで、まとめりそうである。

リアルな動物を撮影し、こども病院の病室にARを使ってタブレットで登場させるとか、拠点と拠点、プロジェクトとプロジェクトをつなげていくこともできるのではないかと部会で山梨委員から頂いた意見をもとに考えた。

市民の方が観に来るだけでなく参加するようにすることで、芸術祭基本構想に掲げたミッションをクリアしていけるのではないかなと思う。

今回、千葉市在住の専門人材として才能がある方が集結している。現場を一緒に作っていくという意味において千葉市在住の方が立ち上がって、千葉市を良くしていこうという愛にあふれたチームである。芸術祭に携わる方の働き方改革もしている。仕事として充実した時間となるように、コンプライアンス的にも、芸術祭を継続していくためにも重要なことだと思っている。

【神谷委員長】ありがとうございました。委員の皆様からご意見いただければと思います。

【折原委員】3月まで花見川区長をしており、天馬船プロジェクト、花見川団地でのかえっこプロジェクトで、花見川区に着目していただきありがたい。花見川エリアの説明として、「産業や

コミュニティの発展は衰退」というのはなかなか強い言葉に感じます。川の近くの産業といいますと、かつては漁業、現在は農業かと想像しますが、具体的に「産業」は何かと言えないなら、「なりわい」という表記がよいと思います。

コミュニティの衰退については、人数は減っているが、活力は伸ばしていこうとしているので、「衰退」ではなく「減速」としていただいた方がいいと考えます。

【中村総合ディレクター】おっしゃる通りだと思います。表記を改めたいと思います。

【足立委員】実施計画書は素晴らしいと思う。開府900年の委員も行っており、双方の究極の目的は、千葉を魅力的に、何年も続いていくようにという思いであると思う。千葉開府900年とのコラボや連携といった視点での取組みを意識されているか。

【中村総合ディレクター】千葉開府900年の方は概要しか把握していないが、花見川の川のプロジェクトなどは親和性があるのではないかと考えています。コラボできるところはするように、文化振興課を含めて議論をしたい。

【事務局】開府900年自体は、50年に一度の周年事業として企画検討しているところ。芸術祭は、2025をスタートとしてトリエンナーレとして継続的に発展させようとしています。タイミングとしては、芸術祭が来年度が一回目の本番。開府900年は8年度が本番で、ゆるやかに連動していくイメージは持っています。中村総合ディレクターのご説明のとおり個々のプロジェクトとしてはコラボできるものは検討していきたいと思っています。

【神谷委員長】開府900年の委員長もしています。芸術祭開催概要の「ひとづくり」と開府900年の自らのちからで未来を切り拓いていくというところの根幹は同じだと思います。来年度は芸術祭、令和8年度は千葉開府900年が本番を迎えるので、時期としても連携はできると思います。私の責任で連携していくよう、課題として持っていきたいと思っています。

【佐久間副委員長】私も開府900年の委員もしている。900年を起点として継続していけるものをと投げかけていますが、なかなか出てこないという現状があります。900年の中核的なものとして芸術祭を組み込み、継続していけるといいと思いました。全体予算が限られているので、全体で協力していけるといいと思う。

あと、音楽についても芸術祭で取り入れられないかと思う。千葉交響楽団という地元の交響楽団がある。動物の謝肉祭という曲があるので動物公園などで取り入れるなど検討していただけないか。

【中村総合ディレクター】音楽についてはまさに検討しており、クラシックについては年齢層が高くなるがファンが多くいるので、何らかの形で取り込めないか考えていたところ。若い人たちはストリートカルチャーでスケートボードやブレイキンなども千葉で活発的にやっているの、世代によって抱えている趣味性について、アンデパンダン展などで取り入れていきたいと思う。

【佐久間副委員長】私は千葉交響楽団を応援する会の会長をしておりますので、ご検討いただけるとありがたいと思う。

【横手委員】西千葉について、文教地区として子どもを対象とするものが多いと思うが、文中で大学から高校までとありますが、中学校、小学校、由緒ある幼稚園もあるので、初等から中等も加えていただけると、みんなで盛り上げていけると思います。

【中村総合ディレクター】そのイメージでいます。子どもの成長と合わせて街の成長があります。千葉大学さんの中も魅力的な場所が多いので、ご相談させていただけるとありがたいです。

【綱島委員】34ページに広報戦略があり、総花的ではないとあるが、メディア的な言い方だと、芸術祭が全体的にすべてのフィールドで参加型なのはわかりましたが、象徴、ピークを作りづらいと思います。長い期間をかけて千葉市のあらゆるところで実施はあるとはいえ、露出をするという観点ではややわかりづらいと思います。

【中村総合ディレクター】本番年の実施計画に出てくる話だと思います。コア会期の時に観に行こう、参加しようという気持ちを喚起しなければならないので、この場所に必ず行ってほしい、象徴的なものを見ることができる、というようなことは考えている。そうするとそこに引っ張られてそれ以外のやさしいプロジェクトが埋もれてしまうので、難しいところだと思います。

【中田広報ディレクター】千葉市は色々な要素がある郊外都市なので、千葉芸といえばこれ、というようなものは作りづらく、新しい広報的な見せ方を考えていかなければならないと思っています。クローズドな場所で行われるプログラムについては動画、アーカイブ、絵本などで伝えていけるのではないかと思います。

お祭りとしての山場はこれから考え、ハレの場ではなくケの部分にも取り組んでいきたいと思い、新たなスタイルの広報に取り組んだということも発信していきたいと思っています。

【神谷委員長】おおむねご理解いただけたと思います。花見川周辺、西千葉周辺の説明については手を加えることをお願いしたいと思います。

また、開府900年との連携については、計画にすぐ加えるのは難しいと思うが、具体的な検討をさせていただきたいと思います。

広報戦略については、象徴とピークをどう持ってくるかについては、日常の伝え方を含めて検討していくということで全体的なご承認をいただけたものとさせていただく。

【各委員】異議なし

【中村総合ディレクター】19ページの公募プロジェクトについて。世界から参加アーティストを募ります。広報的には最初に出てくるものである。経験から言うと数百という応募があると思います。イメージとしては動物公園、空き店舗でプロジェクトを行うことを考えています。そこで皆様のご協力をいただきたい。千葉市の若手の枠もあるので、ご推薦などしていただければありがたいです。

【神谷委員長】皆さんそれぞれの立場からも、市内外に伝えていくためのご協力をお願いしたいと思います。

それでは、議案3について事務局から説明をお願いします。

<事務局説明>

【神谷委員長】ありがとうございました。それでは議題３についてご意見、ご質問はありますか。

【各委員】質問なし

【神谷委員長】ご質問ないようですので、議題３については承認してよろしいでしょうか。

【各委員】異議なし

【神谷委員長】それではご異議ないようですので、諮問いたします。（資料３を読み上げ）

皆様のご協力により、予定されていた議案について、全て議決することができました。円滑な議事運営にご協力いただき、誠にありがとうございました。

今後も、委員の皆様とともに、また、市民・企業・団体など千葉市に関わる全ての人々と芸術祭に取り組んでまいりますので、引き続きご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。